

とき の す  
**時ノ寿の森通信**

第 26 号  
2013. 1. 7 発行  
NPO 法人 時ノ寿の森クラブ

<http://outdoor.geocities.jp/tokinosunomori>

E-mail : [tokinosunomori@yahoo.co.jp](mailto:tokinosunomori@yahoo.co.jp)

<連絡先> 掛川市中宿 1 1 3 (TEL・FAX 0537-23-0412) 「森の駅 時ノ寿」(TEL 0537-28-0082)

<別紙>

- ①活動予定表「1～3月」
- ②2013年「いのちを守る・希望の森づくり・プロジェクト」植樹祭チラシ

<もくじ>

★ ごあいさつ 「健康第一で希望を持って」	1
★ 行事案内 「2月17日 時ノ寿工房上棟式・祝餅投げ」	2
「3月23日 沖之須防災林・森の防波堤づくり植樹祭」	2
「3月24日 掛川市立総合病院・希望の森づくり植樹祭」	2
★ 近況報告(時ノ寿ブログより)	
11月10日「南相馬市長の話に感銘」	3
11月11日「育樹祭で表彰を受ける」	3
11月8日「森の文庫」	4
11月27日「内陸フロンティア構想」	5
12月4日「最悪の国産材市況」	6
12月7日「市議会一般質問」	6
12月9日「森林で雇用創出」	7
12月16日「NPO3年目の納会」	8
12月18日「霞が関」	8
12月21日「初心」	9
12月30日「1年を総括し新年へ飛躍」	10
1月4日「7年目に入ったブログ」	11

<ごあいさつ>

2013年あけましておめでとうございます。巳年は、自らにとっては5回目の年男となりますが、換言すれば還暦で人生にとって大きな節目の年であります。仕事の面では、掛川市と袋井市が一体となり建設してきた中東遠総合医療センターが5月1日に開院するため、新病院へ円滑に引き継ぎ、現病院を無事閉鎖するという大きな役目があります。そして、生涯の学習として始めた森林再生活動は、140名の会員の皆様をはじめ多くの方々のご支援のお陰で、本年も市内5カ所で2万本を越す植樹事業などが予定されています。しかし、7年目を迎えたこの活動が、未来へ安定して継承されて行くためには、現NPO法人の組織運営基盤を本格的に練り上げる年でもあると考えています。

プライベートを振り返れば、母は昨年から施設にお世話になっており、会話や昔の思い出が刺激になるので、一回でも多く訪問してやりたいと思います。また、1月下旬には4人目の外孫が誕生します。一番上は5歳になりますので、現代社会の中で、子供が元気に感性豊かに育つためには、ふるさとの祖父の役割が大事だと自覚しています。末息子は昨年末に結婚し、地域に居住してくれましたので、新家庭への協力も忘れてはなりません。

このように取り巻く公私の環境は様々ですが、どれもこれも大事なことばかりです。誰かも言っていましたが、天が与えてくれた使命だと思います。あせらずにかつ謙虚に、何を成すにも心身の健康が第一ですので、早寝早起き、腹八分目、酒はほどほどに、気持ちは穏やかに、頭は柔軟に、そして何事にも希望を持って臨んで参りたいと思います。

どうぞ本年も、時ノ寿の森クラブの森林再生活動に、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

### <行事案内>

## 時ノ寿工房上棟式・祝餅投げに全員集合！

～ 伝統木造構法で組み上げた重厚な柱・梁を見に来てください！

みんなで祝餅を拾って夢を広げてください！～

時ノ寿の森クラブの森林再生活動の理念は、「近者悦ばば 遠者来る」（論語）の精神です。会員自らが森林を楽しみながら、荒廃する森林を再生して行けば、広く社会からも森林に関心が集まり、人々の生活と森林が身近に繋がり、木材利用は拡大し、森林の公益的機能の重要性も理解され、社会全体によって森林が守られていくと考えています。

この時ノ寿工房は、会員の皆様をはじめ広く市民が森林を親しむ場として、利用価値のある施設にしたいと思っています。このように夢の広がる建物の祝賀行事です。会員の皆様には、ご家族お誘い合わせの上、大勢ご参加いただきますようお願いしております。

と き 2月17日（日） 午後2時から

ところ 時ノ寿の森

持ち物 祝餅を入れる袋

## いのちを守る「希望の森づくり」プロジェクト 沖之須防災林「森の防波堤づくり」植樹祭

と き 3月23日（土）午前10時～午前11時30分

ところ 沖之須防災林（掛川市大須賀地区）

規 模 3000㎡・9000本

## 掛川市立総合病院「希望の森づくり」植樹祭

と き 3月24日（日）午前10時～午前11時30分

ところ 掛川市立総合病院敷地内（掛川市杉谷南一丁目）

規 模 500 m<sup>2</sup>・1500 本

## ＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2012年11月10日(土)

### 南相馬市長の話に感銘

ギリギリの状況の中で、住民のいのちを守ることに自らの政治生命を掛けられた南相馬市長・桜井勝信氏の話聞きながら、まさに本物の政治家であると思いました。これほど強く心を動かされたのは、数年前に宮脇先生と初めてお会いして森林再生の夢を語った時以来かもしれません。静岡市で開催された「緊急シンポジウム・森の防潮堤づくり」は、東日本大震災の尊い教訓を、大地震が予想され、さらには原子力発電所が存在する静岡県において余すことなく生かさなければいけないと、宮脇昭先生の提唱する森の防潮堤構想を研究する有志たちの集まりによって開催されました。



そのような本気の人たちの企画によるシンポジウムですので、招かれたパネラーたちも、聴講する参加者たちもみんな本気の人たちでした。私などは到底席を並べられる場ではありませんでしたが、南相馬・桜井市長、牧之原・西原市長、静岡県危機管理部・岩田危機管理監と一緒にディスカッションさせていただきました。

大地震が予想される静岡県において、東日本大震災の教訓をあらゆる面において生かさなければいけないということ、そして県民ひとりひとりが今すぐにでも出来ることから始めなければいけないということ、さらには私たちが行っている「森づくりによる安全な地域づくり」の重要性を、一層強くした素晴らしいシンポジウムでありました。

2012年11月11日(日)

### 育樹祭で表彰を受ける

静岡県で開催の第36回全国育樹祭、今日その式典行事が、県営小笠山運動公園「エコパアリーナ」で、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ開催されました。「木を植えて育てて活かす 緑の力」が今回のテーマですが、川勝県知事は、豊かな森林を豊富に蓄えた県土を持つ静岡県、東海地震など近未来に大災害の危惧される静岡県、日本の



真ん中に位置して交通・産業ともに集積している静岡県ならではの、実現可能な県挙げて進めて行くべき施策であると、主催者の一人として挨拶をされました。

皇太子殿下からは、先人の努力によって今築かれている豊かな森林を育てていくことこそ、大切な国土を守っていくことで、さらには豊かな海を守っていくことでもあると、静岡県民の森づくりへの今までの努力を称えるとともに、これからの努力を希望するお言葉が述べられました。

全国や県内の緑化功労者の表彰がありましたが、光栄なことに、わがNPO法人時ノ寿の森クラブも静岡県森づくり功労者の団体の一つとして受賞いたしました。緑化に関し、長年そして立派な功績のある団体や個人の皆さまの中で大変僭越ですが、6年前に任意団体を発足し、ふるさとの荒廃する森林再生を地道に続け、2年前にはその活動をさらに発展させるためにNPOとなり、会員140名（平成24年10月現在）一人一人の今までの努力が評価されたものと思っています。

社会・経済が大きく変化している中、本日の植樹祭のテーマのとおり「森づくり」の重要性が高まる一方で、その活動を持続して行くことの課題は山積しています。しかし、本日の式典の「宣言」を可能ならしめるような力強い多様な方々からの宣誓、そして子供たちや若者たちによる明るい未来を創造させるたくさんのアトラクションを見ながら、これからの「森づくり」に大きな自信と勇気が湧いてきました。

時ノ寿の森クラブは、まだまだ微力な団体ではありますが、森づくりによる明るい未来を築く夢と希望は、負けないと思っています。これからも、会員一人一人の夢と希望を実現するように、みんなの知恵と力を合せながら、一步ずつたゆまず進んでまいりますので、よろしく願いいたします。

**2012年11月18日(日)**

## **森の文庫**

きょうは昨日の雨も上がり、会員たち12名（うち1名は小学生）参加による定例活動は、活動拠点の森の駅周辺及び植樹地の草刈り作業を行いました。大植樹祭を終えて、ひと休みしたい会員も多いと思いますが、たくさん参加してくれましたので、予定していた工房建設予定地、森の駅駐車場、時ノ寿林道沿線などの伸びた草が刈り払われて冬支度が整いました。



時ノ寿の森が整備されたという成果のほか、今日は時ノ寿の森クラブの将来を大いに展望する事ができたということをお伝えしたいと思います。まずその一つは、先日開催

した「いのちの森づくり国際シンポジウム」に参加していただき、わがNPOの活動に共感して入会してくれたSさんが、小学4年生の子どもを連れて参加してくれたことです。こうした活動は初めてのようでしたが、午後3時すぎまで子どもさんも飽きることなく、森での活動を楽しんでくれたように見え、NPOにとってはとても嬉しいことです。Sさん、無理のないように末永く時ノ寿の森とお付き合いください。

もう一つの嬉しいことは、NPO法人時ノ寿の森クラブの森林再生活動のバックボーンとなっている考え方を、20年前に私に教えてくださいました辰濃和男さんを囲んで、クラブ員みんなで語り合えたということです。語りの中で、辰濃さんは、「世間では東京や大阪が中心だといわれていますが、どんなに文明が進んでも、人間を含む生物が生きて行く上で大切な森が中心であるという考え方が社会になればいけません。」と、そして「みなさんが、純粹に森を愛して、その森を守る活動こそが、社会の中心的な存在であります。」と言ってくださいました。また、日本のナショナルトラストの元祖ともいべき知床100㎡運動「知床に夢を買いませんか」を始めから今日まで30年間も見て来られ、「知床の人たちは100年先、200年先の事を議論して行動していますが、中央を見ても官僚も政治家もそんな人は誰もいません。」と、森を守る人々の活動を評価してくれました。

森を中心の世の中にしようという夢を語りながら、時ノ寿の森に「森の文庫」を作って、森に関する読書会や学習会などを森の文庫でやろうじゃないかということになりました。素晴らしことですね。みなさんぜひ実現しましょう。

**2012年11月27日(火)**

### **内陸フロンティア構想**

新東名がいち早く供用開始された静岡県内だが、その利を山間地を含む内陸部の開発・発展に生かそうというのが、川勝静岡県知事が力を込めて推進している内陸フロンティア構想だ。わが時ノ寿の森も、新東名よりも北部山間地に位置しており、日本の東西を結ぶこの大動脈が通過するだけでは、大気汚染や騒音による自然・生態系破壊の元凶でしかなくなってしまう。すでに、パーキングエリアが営業を開始しているが、通過客相手の物産販売だけでは、山間地を貫くこの大動脈が秘めるポテンシャルのほんの一部を活かしただけにすぎない。



先日、掛川市は、新東名掛川PAの隣接に市が所有している土地の利用計画を発表した。計画の概要は、民間から土地利用計画を公募するというものである。資本のないN

PO法人では、相手にしてもらえそうにないが、森林再生NPO法人の描く壮大な「内陸フロンティア構想」を聞いてくれる企業が、どこかにいませんか。

**2012年12月4日(火)**

### **最悪の国産材市況**

森林を守るための社会運動を推進するために、全市民に参加を呼びかけたの大植樹祭「いのちを守る・希望の森づくり・プロジェクト」に明け暮れて1年が過ぎてしまいました。

お陰で、掛川市で進めているわがNPOの森林再生活動は、社会に大きくクローズアップされました。行政からも大きな支援を得ての市民協働による森づくりとしても注目を集めました。



しかし、今日の我が国の社会経済構造の中で、国土の70%も森林が占める森林国でありながら、森林を守っていくことが難しいということを実感させられた1年でもありました。今年こそは、私たちのような真摯な姿勢で進めている森林再生NPOにとっても、少しは自立の道が開かれるような木材市況への明るい兆しを期待したのですが、師走を迎えた最近の木材市況は最悪の状況です。

今夜も、定例の理事会で、この木材市況の現実を各理事に説明をしましたが、森林を守りながらNPOを運営していくのは生易しいものではないということが分かったと思います。厳しさを何も知らずに、夢だけ描いていても実現は不可能です。厳しさを知りつつ、それ以上の情熱と創意傾けてこそ、運もついてくると信じています。

来年も、大きな期待をせずに、自らの力の範囲で一步ずつ道を切り開いて行きましよう。

**2012年12月7日(金)**

### **市議会一般質問**

地方自治体の議会一般質問は、自治体の政策について議員と首長が討論する場である。テーマはあらかじめ、議員から首長に対して通告されているが、許された時間内であれば、議員は何回でも首長に対して



再質問をしてテーマを掘り下げ追求していくことが可能である。地方政治において、一般質問は議員も首長もまさに真剣勝負の場と言える。そのような、重要な場である掛川市議会一般質問が、12月6日と7日の両日開催された。そして、二人の議員の質問テーマの中で、わがNPO法人時ノ寿の森クラブの活動事例を具体的に上げて評価して下さるとともに、さらには森林都市として行政における森林保全政策の必要性が追求された。

その一般質問のやり取りの中で掛川市長は、森林資源を活かした都市づくりが大切であるとの考え方を明確にされていた。環境日本一を提唱する掛川市であるが、森林都市として特長ある理念や施策の展開を大いに期待したいものである。

木材市況が最悪の今日であるが、宮脇昭先生の言われる通り「ピンチこそチャンス」と考え、未来の子どもたちの「いのち」を守る森林を市政運営の最重要テーマに位置付けたらどうだろう。

**2012年12月9日(日)**

### **森林で雇用創出**

厳しい国産材の市況は言うに及びません。衆議院選挙真ただ中において、あらゆる産業が政治の行方に不安を抱きつつ、掲げられている政党や候補者の政治姿勢や政策の選択に困惑している有権者が多いに違いありません。



外交、貿易など、世界の中で国のかじ取りをして行くには、いの一番の政策であるでしょう。しかし、国民が国内の資源によって物づくりを行い、それを国民が消費するということが一国の運営の基本ではないでしょうか。

自分の進むべき方向性が分からなくなった時は、自分の歩んできた道を出来る限り詳細に振り返ってみることだと教えてくれた先生がいましたが、今日の我が国ほど重要な課題が山積しているのに、これほど頻繁に政治のかじ取り役が変わってしまっているのは、国民は政治を信用することが出来ずに、安心して生活も投資もできません。

日本の狭い国土に広がる小さな森林をはじめ、小さな農地を国民の参加によって生産性を上げて行く経済システムができないのかと、真剣に思います。政治はどうなるのか分かりませんが、私たちNPO法人時ノ寿の森クラブは、2013年は森林で雇用を創出することを最大のテーマとしたいと思います。

2012年12月16日(日)

## NPO3年目の納会

NPO法人時ノ寿の森クラブは、未来の子どもたちに豊かな森林を引き継ぐことをめざした任意団体による森林再生活動を、社会的使命として位置付けて活動に対する社会的参加を拡大して行くため、3年前の平成22年4月6日にNPOを設立しました。活動の理念や運営方針をまったく変えずに、会員を大切にした組織運営に努めてきたつもりですが、NPO法人



として「ふるさとの森林再生」という大きな目的のために多くのチャレンジをしてきたことも事実です。以前、講演会での講師がNPO法人の3年目の危機というような話をされましたが、わがNPO法人の3年間の足跡を振り返ると、3年という節目はとても大切な時期であると実感しています。そのような時期にあるNPO法人時ノ寿の森クラブですが、本日3年目の納会を会員・ご家族27名の参加を得て賑やかに開催しました。主宰者として、これほど嬉しいことはありません。

奇しくも今日衆議院総選挙があり、3年3ヶ月続いた民主党政権に対して国民は厳しい審判をしました。政治は激動するでしょうが、国民生活の課題や地域社会の課題に変化はありません。狭い国土のすべての地域に国民が住まい、その地域の文化や資源を産業に生かした国づくりをお願いしたいと思います。

わがNPO法人時ノ寿の森クラブは、ふるさとの森林再生活動を国土保全と持続可能な産業創出として位置づけ、会員の情熱と創意によりこれからも発展させてまいります。

2012年12月18日(火)

## 霞が関

久しぶりに霞が関を訪れた。政権交代を目前に控えた官僚たちの様子を見に行っただけではなく、われらNPOの森林再生活動にとって非常に重要な時期であるので、新政権下での森林政策への国の助成制度の見通しを探りに林野庁の各担当官を回った。期待していた木質バイオマス発電施設整備への助成制度は、民主党政権の事業仕分けによって新年度は廃止されてし





まうことが分かった。自民党は大規模な補正予算編成に着手するようだが、その見通しはまったく不明であった。

地方のNPOが国の省庁に立ち寄り、有益な情報を得るといようなことはそうそう簡単に出来るものではない。今回の場合も、わがNPOを支援してくれているメディアの仲介を得たことだったが、有り難いことであると、あらためて某メディアのYさんに感謝を申し上げたい。

自民党は大規模な補正予算の編成に入ると思うが、国土の保全に大きく寄与する森林再生活動については、従来よりも増して新政権に期待をしたいと思う。年末年始返上で補正予算編成に入るのか、注視していなければならない。

## 2012年12月21日(金)

### 初心

今年も10日余りとなってしまいました。政治は年の瀬に大きく動きました。国民の暮らしに本気に目を向けた政治を期待し、3年前に国民は自民党から民主党への政権交代を選択しました。しかし、個々の政治家たちの勝手気ままな、そしてあまりに品格のない言動が続くなかで、国民は、初心を忘れてしまった民主党に愛想が尽きてしまったと思います。



先日のノーベル賞授賞式の際の記者会見で、山中伸弥京都大学教授は、色紙に迷わず「初心」と書かれたそうです。科学者にとっての最高榮譽に輝いたにも関わらず、「また今日が新たな始まりですので」と、謙虚さと前に向かっての歩みを止めない姿勢に心から尊敬してしまいます。

昨晚、掛川市役所主催の市民活動の支援を考えるワークショップに参加しました。地域の多種多様な課題に取り組む小さな市民団体の皆さんが集まり、日頃の活動の中で抱える課題を解決する為のいろいろな支援要望が出されました。私達NPO法人時ノ寿の森クラブは、今年も会員をはじめ官民各団体からの物心両面の大きな支援を頂き、本年は大きな事業を展開することが出来ました。これらもひとえに、NPO法人と多様な主体の連携の成果であると思います。このような連携が出来るためには、「このNPOには、この公益機関や企業とマッチングさせると上手くいくのではないか」などと、常に広く情報を入手していて、発信や提供ができるプロデューサーが必要であると思います。また、NPO法人の気高い初心を理解して、そのNPOが描いているビジョンをしっか

りと活字やストーリーに描いてくれるライターが必要である、とも意見を述べさせてもらいました。

手前味噌ではありますが、私たちのNPOも、任意団体で出発して満6年、NPOになって3年目の若輩者です。本年のような大きな事業を展開できるに至るまでには、団体を設立した初心を忘れずに、ひたすら志を達成するために、現場で汗をかきながら、地道に活動を続けて来ました。そして、その志が少しでも早く実現するための策を考え、その策に支援してくれる団体や制度を、自らの足で東奔西走し探し、熱くかつ謙虚にビジョンを語りました。そのような中で、私達は幸運にも、共鳴してくれる公益団体や民間企業に巡り遭うことが出来ました。

努力は必ず報いられると信じていますが、どんな人でも情熱や忍耐や体力には限界があります。市民活動の人たちの努力が尽きてしまわないうちに、支援の手を差し伸べてやれるシステムを作るのが必要だと思います。

## 2012年12月30日(日)

### 1年を総括し新年へ飛躍

いよいよ2012年も、あと1日となりました。NPO法人時ノ寿の森クラブにとって2012年は、大いなる1年となりました。

文明の転換点にある今日ですが、わが時ノ寿の森クラブは、今から6年前に未来の子どもたちの「いのち」を守るためには「ふるさとの森づくり」が大切であると考え、荒廃する源流域の人工林の再生を開始しました。しかし、志は高くても、19人で始めた小さな活動による広大な荒廃森林の再生活動は、それほど生易しいものではありませんでした。この間には、何度も気が萎える時もありましたが、一人二人と賛同者が増え、泥と汗にまみれながらも希望を失うことなく、地道に活動してきました。現在では、賛同して入会してくれている会員は、県内外を含めて140名にもなります。そして、指導面・財政面・情報発信面などあらゆる分野において、官民を問わず多くの団体からご協力やご支援を頂くことが実現しました。



2012年は、このような活動の実績が認められ、日本財団からは森づくり事業に対して6000万円を超える助成が決定しました。これに伴い、掛川市及び袋井市との連携により建設中の新病院の敷地において、33000人も市民を集めた壮大な植樹祭を実施することができました。また、掛川市としては、森林が市面積の半分を占めることを重要視し、森づくりによって安全・安心なまちづくりを進めて行くという「いのちを守る・希望の

森づくりプロジェクト」を政策に位置付けてくれました。この政策に対する行政の本気度を内外にアピールするかのよう、10月末には国内外から森づくりの著名な先生を招聘した「いのちの森づくり・国際シンポジウム」が開催されました。

このように本年は、私たち時ノ寿の森クラブが進めてきた森林再生活動が、国や地方自治体をはじめ公益法人や企業から、認めていただけました。このことは、社会課題に取り組むNPO法人にとりましては、大変光栄であり、この上ない喜びであります。しかし、森林再生活動は、これから長く持続して行かなければなりません。一つの節目として、素直に喜ぶとともに森林再生活動を社会に広げていくための新たな出発点としたいと思います。

終わりにもう一つ、わがNPO法人にとりましての2012年のニュースを記しておきます。これらの森林保全活動が認められ、11月開催された第36回全国育樹祭において、「森を育てるひと」の団体の部で県知事表彰をいただきました。

1年を総括し新年に飛躍するという願いを込め、わがNPO法人時ノ寿の森クラブの手前味噌のような内容を記述しましたが、会員の皆様には、1年間のご苦勞に対しまして心から感謝を申しあげます。また、会員以外のブログ読者の皆様に対してましては、1年間、陰から活動を応援していただきましたことに心から感謝を申しあげます。ありがとうございました。

新しい年も、一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。では皆様、良いお年をお迎えください。

**2013年1月4日(金)**

**7年目に入ったブログ**

2006年9月から心もとなく始めた時ノ寿の森クラブ・ブログですが、皆さまのご愛顧のお陰で、何とか7年目を迎えました。日記も3日と続いたことのない私ですので、内容はともかく今日まで続けて来られましたのは、皆さまからの激励の「アクセス」(6年3ヶ月間平均毎日45件)をいただいたからに他なりません。この間のアクセス数が、なんと年末に10万件を突破しました。本当にありがとうございました。



文章力の不足やネタが切れて文章がさっぱり進まなかったり、大好きな酒を飲み過ぎて入力できなかったりは、今もしばしばですが、パソコンのハードディスクが突然に壊れてしまったこと、又いたずらコメントの集中攻撃を受けたことなど、ブログ継続を阻

害する多種多様な内的・外的要因を思い出し、今晚のアクセス数 100,370 件を感慨深く見ました。

「年年歳歳 花相似たり、歳歳年年人同じからず」と、昔の人が「人の世の変わりやすいのに比べ、自然は変わらないことよ」と詠まれています。政治、経済、外交、貿易、文明、人口、人心などなど、私達を取り巻く環境は、良きに付き悪しきに付き大きく変化しようとしています。そのような大きな時代の転換点の中で、これから自分自身が、未来の子どもたちのために正しい行動や意思決定を判断するには、その時々における自分の正直な気持ちを明確にしておくことが必要であると、最近痛感させられることが多々あります。

このような気持ちに立ち、このブログの新たな出発点として書いてまいりたいと思います。